



金手三嶋神社は、応永2（1395）年に創建されました。祭神は事代主命、天照大神、宇迦御魂命、大山咋命、水波能売命、鵜萱草葺不命を奉祀しています。

金手地区は貞享3（1686）年の金手村差出帳によると家数50軒、宮6社（三嶋大明神、若宮、神明、山王大権現、稻荷大明神、亥大明神）、1寺（三島院）、1堂があつたと記されています。三嶋神社は、明治時代に金手の各地区にあつた神社を合祀し、金手村の鎮守になりました。現在の社殿は大正10年に再建されたものです。

金手のお宮は神輿が嫌いといわれ、以前に樽神輿を担いだとき拝殿の銀杏の木が折れたことがあり、それ以来祭に神輿は出さなくなりました。祭日は7月23日で、山車の上では金手祭ばやしが奏でられます。



祭日に山車の上で演奏される祭ばやし